

乳腺外科、形成外科のチームで行う乳房再建について

現在、乳がんは日本で女性がかかるがんの第1位となっています。年間4万人以上の女性が乳がんにかかっていますが、近年は早期発見につながる画像診断の技術が進み治療技術も数年前より格段に向上しています。

当院でも最新機器を揃え、乳がんの発見に努めています。



MAMMOMAT3000(SIEMENS製)

● 乳がん治療法

時代とともに乳がんの治療も進歩しています。

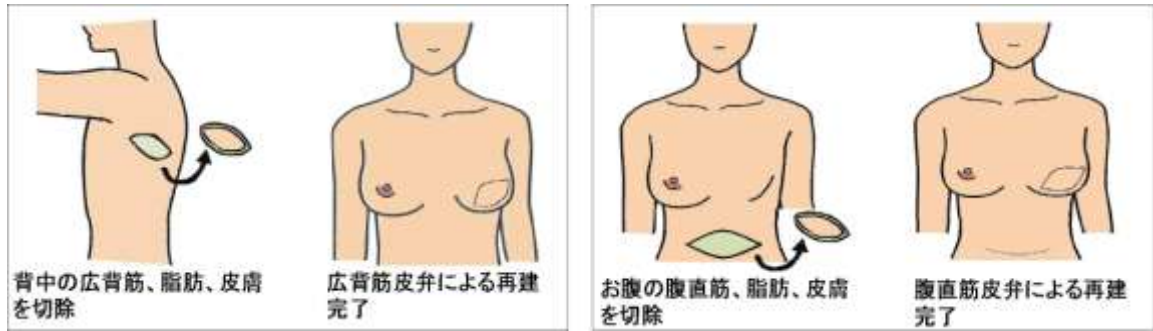
一昔前なら乳がんの治療といえば乳房を全摘して、わきの下（腋窩）のリンパ節をたくさん切除（リンパ節郭清）する手術が標準的でしたが、今では、乳房を大きく切除する手術は少なくなり、手術では患者さんの希望を前提に、がんのある部分だけを取り除く乳房温存療法をまず検討し、がんのひろがり大きい場合に、乳房全体を切除する方法を選びます。

温存手術は3センチ以内の大きさの乳がん、数は1つの場合に温存術が適応されます。しかし、必ずしも基準通りでなくても、抗がん剤を使ってがんを小さくしてから、温存手術に持ち込む方法をとることも検討します。

温存術が困難な場合でも形成外科とのチーム医療で乳房再建を同時に行うことを検討します。温存に入りにくい、バランスが悪くなる等の、乳房全摘をすることでおきる肉体的、精神的な問題が、乳房再建を行うことによって少しでも改善できる場合もあります。

● 乳房再建方法

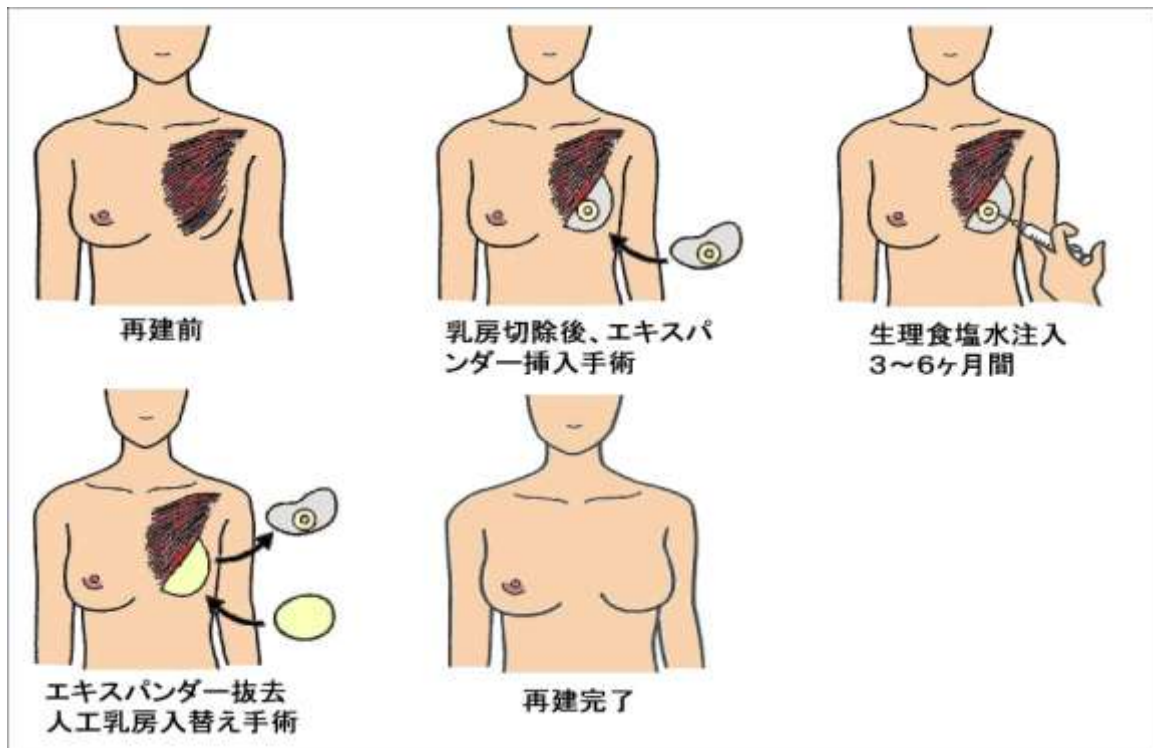
乳房再建には自分の筋肉（背中の筋肉；広背筋、おなかの筋肉；腹直筋）を用いる場合と人工物（インプラント）を用いる場合があります。



広背筋皮弁法

腹直筋皮弁法

人工物の場合にはまずエキスパンダーという皮膚をのぼす風船のような袋を皮膚、筋肉の下に置いて膨らませてから、期間をおいて人工乳房に入れ替えるという方法です。



人工乳房再建

乳房再建をしたからといって乳がんの再発を発見することが遅れることはありません。再建時期についても当院では乳がんの手術と同時に行う一期再建を行っています。また、乳頭も手術で作ることも可能です。このような努力をして、最近では 7 割ぐらいの方が乳首を残すような手術を受けられています。当院では、乳腺外科、形成外科チームによる乳がん手術、乳房同時再建を行い美容の面にも気づかったがんの治療を行っています。

詳細は外科 乳腺外来にてご相談下さい。